

第14回

地域教育実践交流集会

かかわりをチカラに

つながりをカタチに

そして
一人ひとりの笑顔を繋げることができる

地域教育とウェルビーイング

コロナウイルスがまん延する中で、今年度は、地域教育とウェルビーイングをテーマとしました。ウェルビーイングとは、肉体的にも精神的にも社会的にもすべて充実した状態を表す概念です。持続的な幸せとは何か、地域教育を通じて考えていきます。ソーシャルディスタンスやリモートという制約された日常の生活で、現実的には人とのかかわり、地域とのかかわりが重視されるようになりました。子どもたちとどのようにかかわればいいのか、この集会がその一助になれば幸いです。

12月4日(土)13:30~18:00

オンライン開催

過去の活動内容を知りたい方は
NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構
<http://kochall.org>へ

主催：地域教育実践ネットワークえひめ

後援：文部科学省

愛媛県

愛媛県教育委員会

「えひめ教育の日」推進会議

愛媛県教育研究協議会

協力：NPO 法人

えひめ子どもチャレンジ支援機構



当集会は、年代を問わず、多方面から、多様な方々が「子ども」をキーワードに一堂に会し、知り合い、かわり合って「つながる」ことを目的としている会です。

昨年に引き続き、コロナ感染のため、対面にて「出会う」ことはできませんでしたが、オンラインで二百四十名ものみなさんと感動を共にすることが出来ました。

十五回目は、どのようになるか、先が見えない状態ですが、この集会で、新しい未来に向けて、みなさんの活動がさらに、充実したものになればと思います。

※14回の詳しい様子は、国立教育政策研究所
社会教育実践研究センター内の情報番組
「社研の窓」をクリックしてご覧ください。
<https://www.nier.go.jp/jissen/>

2021年度日本郵便年賀寄付金助成事業

2021 年は、オンライン集会が始まる前、待ち時間に今までの地域教育実践集会の変遷とアトラクションとして愛媛県の伝統的な文化を子どもたちが継承している姿を紹介しました。

第 14 回会議・研修日程

日 時	会議名/研修名	開催方法
4月10日(土)	第1回執行部会	Zoom
5月29日(土)	第2回執行部会	Zoom
6月27日(日)※大洲から配信	第1回実行委員会	参集+Zoom
7月24日(土)※大洲から配信	第2回実行委員会	参集+Zoom
8月28日(土)	第3回実行委員会	Zoom
9月25日(土)	第4回実行委員会	Zoom
10月9日(土)	Zoom 基礎研修①	Zoom
10月16日(土)	Zoom 基礎研修②	Zoom
10月23日(土)※大洲から	Zoom 基礎研修③	参集+Zoom
10月30日(土)	Zoom 基礎研修④	Zoom
11月6日(土)	Zoom 事例発表研修①	Zoom
11月13日(土)※大洲から	Zoom 事例発表研修②	参集+Zoom
11月20日(土)	Zoom 事例発表研修③	Zoom
11月21日(日)※大洲から	第5回実行委員会	参集+Zoom
11月23日(火)	Zoom 事例発表研修④	Zoom
11月24日(水)	Zoom 事例発表研修⑤	Zoom
11月25日(木)	Zoom 事例発表研修⑥	Zoom
11月26日(金)	Zoom 事例発表研修⑦	Zoom
11月29日(月)	Zoom 事例発表研修⑧	Zoom
12月4日(土)※大洲から配信	第14回地域教育実践交流集会	Zoom
12月25日(土)	スピノフ会①	Zoom
1月8日(土)	スピノフ会②	Zoom
1月15日(土)	スピノフ会③	Zoom
1月22日(土)	スピノフ会④	Zoom
1月29日(土)	スピノフ会⑤	Zoom
2月6日(日)※延期	東予ブロック集会	
2月13日(日)	中予ブロック集会	Zoom
2月19日(土)※延期	南予ブロック集会	
3月12日(土)	第6回実行委員会	Zoom

Attraction



浜方獅子連(今治市)

継ぎ獅子は、“神様は天においでで、私たちを守っていただいている”という伊勢の神楽から伝わりました。心一つにならなければ、崩れてしまう「継ぎ獅子」の頂点には、「獅子子(ししこ)」と呼ばれる子どもが上がり扇や鈴を持ち舞います。



久万山五神太鼓(久万高原町)

戦国時代、久万山大除城主大野直昌は、滅亡の危機に陥りました。神のご加護を得んと、守護神・ダイバの仮面を小姓衆に付けさせ、太鼓・樽を一齐に打ち鳴らし神に奉じました。祈りは天に通じ、空にわかにかき曇り時ならぬ夕立襲来を呼び、窮地を脱したと伝えられています。



吉田の郷土芸能

宵宮宝多は、各地区の子どもから大人が白装束の装いに宝多面を持ち、宵宮の晩に南山八幡神社を参詣し、御神符を受けてそれを角に貼り、夜が明けるまで吉田の町を闊歩する徒歩練り。家内安全や商売繁盛を宝多の歯を打ち鳴らしながら祈願します。

分散会 (14:15~16:00)

13分散会 26事例

参加者 214名

分散会 1



あおばコミュニティ・テラス
 「中・高校生世代のサードプレイス居場所」として青少年の地域活動拠点となっている場所。中高生が思いを持って、地域課題やまちづくりに取り組んでいる。



西予市中筋公民館

地区離れが進行している場所で、活性化のために、「中筋地区を知らしめる事業(通称:世界一の大門松事業)」を実施する。観光客も年々増え、メディアにも取り上げられ、一定の効果があった。

分散会 2



松野町 せいけ企画 ACCELE

一軒の空き家を改修して、スペースを確保。そこに遊びに来る人たちが、自分たちの夢を実現する。ACCELEとは、加速という意。せいけという場所で、だれかのつばやきを企画し、加速させる。

分散会 3



オンラインおはなし会



当日の子どもたちの様子



ことばの会

「おはなし工房」(東温市 お話し会)に所属。図書館や保育園のお話し会に参加。今年3月、視覚障がい者の読書について情報交換をするオンラインイベントを行う。自分たちがおはなしをたのしむ、「オンラインおはなしの会」を定期的に開催している。

ぴーなっつ 結成から現在まで④



徳島県 ぴーなっつ

PTA 活動を通じて、子どものために活動をする喜びを知った4人の母親から始まった。コロナで活動を制限されているが、オンラインを駆使して、マスク作りや手洗いの動画など作成している。

NPO おのみち寺子屋

コロナ禍が続く、例年実施している「おのみち 100km 徒歩の旅」(小学生たちと8月に4泊5日をかけて尾道市内の 100km を歩き抜く)の実施が難しく、今年度は新しい取組「おの 100 挑戦隊『感動創造の旅』」を計画した。実施直前で、ストップがっかり、「学びの機会」としての4日間のみ開催となった。

分散会 4



認定 NPO 法人ミニシティ・プラス

子どもたちをまちづくりの現場に特命で派遣し、子どものアイデアや機動力を活かしてまちの課題の解決やにぎわいづくりに、大人と一緒に取り組む事業。神奈川県の様々なまちづくりの場所に参加できる小学校5年生から高校3年生が対象。



松野町地域おこし協力隊

松野町で、小中学校への ICT 学習推進・学習指導、地域住民への ICT 普及啓発、情報発信方法の再構築などの取組をしている。

分散会 5



今後の展望

久万高原町内でもっと事業を定着させていくことが一番大きな目標！
高齢者への支援ばかりでなく、子育て世代・子供・障害者…
どの世代へも、どんな方へも、幅広く関わり続けたい。

そのためには、各関係機関との強い連携が必要。
積極的にいろんな会議やイベントに参加し、繋がりを作っていきたい。

現在行っている事業のほとんどが委託料をいただながらの事業。
退任後、自走して続けていくための仕組みづくりを行っている。

まちおこしは住民さんが元気じゃないと始まらない！



釈迦内サンフラワープロジェクト実行委員会

大館市全体を教室に、市民一人一人が先生になって、ふるさとキャリア教育を未来戦略として打ち出している。具体的には、地域ブランドのひまわりを、栽培から商品化、販売まで行っている。

久万高原町地域おこし協力隊

住民が元気でなければ町おこしは始まらない。コミュニティナースであり、地域おこし協力隊の利点を活かし、住民の身近な存在として、心と身体の健康と安心の実現を目指している。

分散会 6



益田市教育委員会協働のひとづくり推進課

協働のひとづくり推進課の若者に修養してもらうために、マルシェ方式でいくつかの活動を任せた。市職員自身がこの町で生きることを楽しみながら、市民として市民と一緒に生活することで、丸抱え丸投げの行政から市民として市民と一緒に生活する市役所職員に成長している。



The ZEN 如法寺もりあげ隊

お寺と地域をつなげて子育てををするというコンセプトで如法寺座禅の会のイベントからスタートした。現在、コロナの影響で活動をするのは難しいが、「今できることをできるだけ、楽しむ」をモットーに活動している。

分散会 7



栗林おやし塾

まずは、自分たちが楽しむことを大切に、おやじたちの地域活動の場をつくった。そのことで、学校教育とつながりができた。高松市全域で小中学校のコミュニティ・スクールを設置するにあたり、栗林地区はいち早く学校運営協議会を立ち上げた。



愛媛県立土居高等学校情報科学部

実践としては、「はじまりの時期」「形成の時期」「持続・拡大の時期」「変容の時期」と分けられる。現在は、変容の時期、選定・授与されたビジョンを実現する取組を行っている。新しいネットワークシステムを構築し、持続可能な社会の実現となることを確信している。

分散会 8



高知大学地域協働学部の学生 田中 李奈さんの奮闘

県内各地でフィールドワークを実施、地域コミュニティの再生、商店街の活性化、地場産業を活かした商品開発など、学生が企画し地域住民と協働して実践している。オンライントークイベント、仁淀ブルー熱中塾、廃校を活用してこうちみませ楽舎など。

特定非営利活動法人 U.grandma Japan

平成 30 年の豪雨被害を期に、生活再建から中間支援まで活動してきたが、みえてきたのは、コミュニティや顔が見える関係をつくることの大切さだった。食を通した関係づくりの視点から、子ども食堂を立ち上げ、防災教育も実施した。コロナで、子ども食堂を開催できない現在、多様な人とかわかり、ごちそうさまプロジェクトで子どもたちにチラシを配ったり、キッチンカーを運用したりしている。

分散会 9



徳島県特定非営利活動法人牟岐キャリアサポート

中学生対象のキャリア教育「シラタマ活動」を学生 NPO が 2015 年より実施している。当時、企画・運営に携わった学生が牟岐町職員で働くなどの人材の循環が起きている。しかし、コロナ感染に伴い、社会教育での活動が制約を受ける中でオンラインを活用した学校教育（環境学習や平和学習等）支援を行っている。

マルコボ、コム

本来、俳句はコツさえつかめば、簡単に自分を表現できる。子どもの苦手意識をなくすため、子ども向けのテキストを作成、また、地元のマンダリンパイレーツや学校と連携を図り、楽しく俳句をつくれるよう工夫をしている。私たちは「100 年俳句計画」という精神のもと様々な俳句イベントを行っている。

分散会 10



特定非営利活動法人 だっぴ

若者のキャリア教育を中心に教育と地域コミュニティをつなげ、地域振興にも携わる活動。中高生、大学生と地域の人の多世代交流学び合いの機会をつくることにより、中高生が自分の生き方や働き方を考える。



愛媛県立伊予農業高等学校 食品化学科

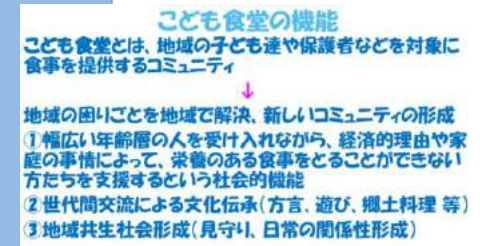
農業の魅力を伝えたいという思いのもと、栽培体験と学習を1パックの教育コンテンツとして交流学習を実施する。この水耕栽培キットは学生が開発した。現在、小学生とリモートを含めた交流学習などを行っている。

分散会 11



津田市民センター 地元の高校生が「さいき部」をつくる

廿日市市佐伯地域の地元高校生が、桜の咲く風景の様子や、佐伯地域のサイクリングの様子を動画に撮り、春夏秋冬の佐伯地域の映像を撮影、編集して配信することで、人口の減っている佐伯地域の魅力を発信するために様々な活動を行っている。



えひめ地域子ども食堂ネットワーク

子ども食堂は、地域の子どもたちだけで食事に来ることができる子どもの居場所、コミュニティ。現在は、幅広い年齢層の人を受け入れながらいろいろな人を支援する社会的な機能や、地域の共生社会を形成するなど、様々な機能を果たすようになってきている。

分散会 12



小規模校での取組み

学年	人数	活動内容
4年	10名	地域清掃活動
5年	11名	防災訓練、地域清掃活動
6年	12名	防災訓練、地域清掃活動
7年	13名	防災訓練、地域清掃活動
8年	14名	防災訓練、地域清掃活動
9年	15名	防災訓練、地域清掃活動

東神楽町 志比内地区の公民館活動

人口 100 人程度の小さな地区。公民館ごとに「地区別町づくり計画」を策定。少子化の進む志比内地区では、小学校を存続させるため、道内唯一の山村留学制度と小規模特認校制度を導入した。また、分裂していた地区を統合し公民館をまとめて、自治公民館を発生させた。

①開講式・野外活動の基礎



双海町子ども教室実行委員会

地域の魅力を生かした様々なプログラムを体験することにより、ふるさとを愛する心をもった心身ともに健全な子どもを育てることを目的とした事業。この事業は、「ふるさと体験塾」、「おもしろ大作戦」、「わくわく生活体験夕焼け村(通学合宿)」の3つで構成されている。

分散会 13



認定 NPO 法人カタリバ

東日本大震災の津波によって、大槌町は住民の一部が犠牲になった。しかし、教育を軸に復興を図り、東京の NPO カタリバを受け入れてくれた。どんな環境に生まれ育っても未来をつくす力を育める社会を実現するために、意欲と創造性をすべての 10 代へ届ける活動をしている。



CIL 星宮

実際に障がいをもつ人間が中心となり、『障がい者が障がいのない人と同じように暮らせるようにしたい』、『障がいを理由に「できない」ということを全てなくしたい』という思いのもと、地域で一人でも多くの障がい者が自立生活を行えるようにするための支援、サービスを行っている団体。

分散会 14



	高校	中学校
事業	課題と抱える生徒フォローアップ事業 (大塚教育庁) 約50〜100万程度/1校 学習は学校によって実施。	福祉系アップ地域活動事業 (大塚市教育委員会) 約10万程度/1校 SD 予選勉強会 2/3 履修活動
連携	教育庁 事業としての連携はなし。	地域活動協議会・PTA・地域の施設 社会・家もついでセンター等
開所場所	遠く教室 (福祉系・社会科専修室・多目的教室)	図書室 (学校内図書室)
対象	あり (ほぼ予選履修場所内での対象はなし)	なし
スタッフ	FAIRROADスタッフ2名 + 大學生 + ホランティアスタッフ	FAIRROADスタッフ2名 + 連携している人たち1〜3名 + 連携先の専業主婦



NPO 法人 FAIRROAD

学校内居場所事業は「学びのストライクゾーンを広げるためのシンボル」、学校外居場所は自由度が高く、幅広い活動を行うことができる。民主主義的な場・対話を行える場をつくり続ける取り組みをしている。

松山市社会福祉協議会

2008 年に実施した「福祉ワーカーズスクール」で、市が行う地域福祉のまちづくりに俳句を取り入れた。幅広い福祉関係者が集い学んだ。福祉体験学習に来る子どもたちには感想は、作文ではなく俳句を詠んでもらっている。

分散会 15



中富良野町教育委員会

平成元年よりウインターフェスティバルが始まったが、2 年前よりコロナ。中止にするのではなく、雪像コンテスト、地域の魅力を知ってもらうための冬フォトコンパ、沖永良部島和泊町のイイサーや花火をオンライン中継で流すなど、今までの関係性を生かしながら、活動できることを考え実施。



NPO 法人いよココロザシ大学

夏休み中の子どもたちの第3の場所として、いよココロザシ大学付属学園を定員 40 人で 34 日間実施。コンセプトは想像×創造。子どもの自由・自主を尊重する共に、保護者とのコミュニケーションも大切に、両者から好評を得る。

東・中・南予ブロック大会

今年度のブロック大会は、対面式の開催は、コロナウイルス蔓延のため延期となりました。オンラインでの開催、中予ブロックのみ開催です。



中予ブロック

新旧若者よあつまれ！つながりかたはいろいろ！

令和 4 年 2 月 13 日(日)13:00~16:10

オンライン開催

参加者 59 名

実践発表およびインタビュー-13:10~14:30
聞き手: 富田 敏(まちづくり学校 双海人 教頭)



愛媛県立伊予農業高等学校 食品化学科
教育コンテンツとしての水耕栽培、マイクロプラントファクトリーの開発。

愛媛大学教育学部附属小学校 土曜学習



プラゴミ
激減プロジェクト。読解力を高めるための教育カリキュラム。教員と学生、子どもが一緒にリアルタイムでつくる。



松山市子ども健全育成事業 土曜塾
学習塾に通っていない中学生を対象に学習習慣の改善、居場所づくりとして大学生が主に運営している。

ブレイクアウトセッション(参加者全員で語り合う)~15:55

地域教育とウェルビーイング

シンポジウム



コーディネーター

関 福生 新居浜市生涯学習センター所長・生涯学習大学長

2 回目のオンライン集会である。昨年度は、コロナ禍の中で工夫をこらしてどのような活動をしてきたか、お話を伺った。今回は、地域教育での課題や希望などを前向きに捉えて活動されている 4 人の方々に登壇していただき、持続可能な幸せについて語っていただいた。

え、あこがれの感染？

菅野 祐太

岩手県大槌町教育委員会教育専門官

東日本大震災の時には、東京のリクルートで働いていた。岩手まで何度か足を運ぶ。このまま、東京に居続けていいのかと、会社を退職し、NPO 法人カタリバに再就職した。

被災した大槌小学校は、学習環境を失っていた。避難所では、子どもはのけ者扱い。高校生が、地域の課題を自分たちの力でなんとかしたいと、マイプロジェクトをつくった。

マイプロジェクトは、地域の人や行政などの大人の伴奏者がいる。高校生の探求の学びを社会教育が担う。子どもが主導の活動に、大人を巻き込むとうまくいく。大人も子どももお互いにつながっていくと、活力になる。あの人みたいになりたいと、あこがれの感染が次の「やってみよう」を促す。



大畑 伸幸

島根県益田市教育委員会ひとづくり推進監

益田市は、大学がないから高校を卒業して 9 割が出て行く。大学を卒業しても 3 割しか

戻ってこない。何もないところだから、何でも作れる。作ることの喜びを知って人がつながる。信頼関係ができて、大人も子どもも対等な立場で語り合い、いい関係をつくる。あこがれの連鎖が始まる。将来に向かっての種まきである。学校教育で足りないところを社会教育で補う。公民館に中学生が集まる。コロナ禍の中だけど、地域のために何かしたいと。計画を立ててイベントを開催する。学校外の活動で生まれるあこがれの連鎖は、育ててくれた地域をもっと盛り上げたいと思うようになる。中学での積み上げを高校で探求してもらおう。そうすると、卒業しても旗を持って帰ってくる子どもが増える。



竹原 和泉

NPO 法人まちと学校の未来代表理事



東京育ち。大学時代、岩手県へボランティアで行く。逆に学ぶことが多く、社会教育に目覚めた。46 歳のときに、社会教育指導員に応募、以来現在に至る。「あおばコミュニティテラス」は、

高校生 が中心だけれど、赤ちゃんから高齢者まで居場所として集う。中高生は、まちづくりについて企画立案など円卓を囲んで忸度なく話す。大学生は、そこで発案できるけれど、中高生を支えるのは難しい。情報収集や課題意識等を話すときは大人がファシリテートする。プロセスを重ねるうちにチームになる。地域では、子どもがいろいろな人に出会うことができる。大人は、用意せず、先回りせず、子どもの本気を待つ。子どもの多様性、大人の学び、世代をつなぐ大学生、上手く循環している。



仙波 英徳

NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構事務長

無人島体験事業は、昭和 63 年から始まった。平成 20 年に、実行委員会が立ち上がり、官民協働となった。

9 泊 10 日の無人島体験である。募集は小学 4 年生から中学 3 年生まで。リーダーは教員、サブは大学生、養護教諭、看護師が参加する。大人は基本的には教えない。子どもの気づきがあるまで待つ。待っていれば、子どもが力を発揮することが分かる。



好評により、今年度もスピノフを企画しました。参加した分散会以外の活動報告も聞きたかったという方のために、大会終了後、賛同していただける団体をお願いして、YouTube で配信し、参加者と一緒にディスカッションの場としました。

スピノフ企画

	日程	参加人数	団体名	URL
第1回	12月25日(土)	19名	びーなっつ	https://youtu.be/BKUsEuhCUkU
			愛媛県立土居高等学校情報科学部	https://youtu.be/O9ZPU9p6o6c
			ことばの会	https://youtu.be/B7w9WgSWOQo
			マルコボ.コム	https://youtu.be/Sf10L8Yfs9A
第2回	1月8日(土)	22名	CIL星空	https://youtu.be/dcHJKAYzUzM
			NPO 法人 FAIRROAD	https://youtu.be/YSXfOeuV70g
			あおぼコミュニティ・テラス	https://youtu.be/1rZ8XkmJww0
			NPO法人だっぴ	https://youtu.be/W34LrSzA03E
第3回	1月15日(土)	23名	せいけ企画 ACCELE	https://youtu.be/jqFNAQv6R00
			特定非営利活動法人牟岐キャリアサポート	https://youtu.be/VDsKcmHErjM
			松山市社会福祉協議会	https://youtu.be/tI8YnE4e9Ac
			栗林おやじ塾	https://youtu.be/njht9hTtjsM
			特定非営利活動法人 U.grandma Japan	https://youtu.be/iLj24KviuGQ
			認定 NPO 法人カタリバ	https://youtu.be/Lqz_xam5EsI
第4回	1月22日(土)	23名	認定 NPO 法人 ミニシティ・プラス	https://youtu.be/EKdScVOj7f4
			NPO 法人いよココロザシ大学	https://youtu.be/_IR9ab9fTDs
			The ZEN 如法寺もりあげ隊	https://youtu.be/CYkTOR5Oyv4
			高知大学地域協働学部の学生	https://youtu.be/DugHaG_pggc
			東神楽町	https://youtu.be/JuejWxYpz40
第5回	1月29日(土)	28名	益田市教育委員会 協働のひとづくり推進課	https://youtu.be/RDhocNKcGbg
			えひめ地域子ども食堂ネットワーク	https://youtu.be/VETsHTt71Wg
			松野町地域おこし協力隊	https://youtu.be/wTsi_Z-jai8
			双海町子ども教室実行委員会(双海地区公民館)	https://youtu.be/yMiN6QPht7o
合計		115名	23事例	

昨年同様、オンラインでの集会でしたが、距離的な制約からは解き放たれ、時間やモノ、コストも最小限度で済みました。

もちろん、マイナスな面もありますが、新しい視点で考える出発点となったのではないのでしょうか。



オンラインだと、場所にとらわれず参加しやすい手段を選ぶことができます。多様なコミュニケーションの機会が増えました。

問い合わせ先

〒791-1136 松山市上野町甲 650 番地 愛媛県生涯学習センター内

NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構 仙波

FAX:089-960-1900 TEL:080-1995-6001 mail:kouma@d6.dion.ne.jp

<http://kochall.org/>